

認定看護師の  
活動について

## 救急看護認定看護師の 活動について

救急看護認定看護師 當田 晶子



現在、私は一般病棟で副看護師長、救急看護認定看護師として勤務しています。急変は時と場所を選ばず発生します。急変対応は全ての医療従事者が身に付ける技術だと考えます。今回は、私が所属する院内急変対策チーム（以下RRT）の活動を通して当院の院内急変対応への取り組みをご紹介します。

### RRTってどんなチームなの？

医師（脳外科・麻酔科等）、診療看護師、集中ケア認定看護師、救急看護認定看護師がチームを組んで院内の院内急変対応の質向上を目的に活動しています。

### RRTはどんな活動をしているの？

院内急変の早期発見や対応、急変を未然に防ぐための指導を行っています。全職員を対象に、救命処置の指導や訓練を定期的に行っています。以下、活動の一部をご紹介します。

### 活動その1：病棟ラウンド

毎週1回各病棟をチームでラウンドし、異常の早期発見やチームで治療介入を行っています。病棟ラウンドはH26年度より開始し、毎年約100件の介入を行っています。

### 活動その2：1次救命処置(BLS)の指導

1次救命処置(BLS)とは、呼吸や心臓が止まった人の近くにいる人が行う応急処置です。1次救命処置(BLS)の研修会を毎月1時間行い、胸骨圧迫(心臓マッサージ)やAEDの使用法などを指導しています。全職員を対象とし、2018年の4月から11月の間に事務職員や薬剤師、放射線技師、看護師など約80名の職員が参加しました。



院内1次救命処置(BLS)研修の様子

### 活動その3：コードブルー訓練の実施

コードブルーとは、急変などの緊急事態が発生したことを知らせる言葉です。当院には、急変時に全館放送で職員を招集して対応する緊急時院内職員招集体制(コードブルー)というシステムがあります。いざという時にこのシステムが起動するよう毎年訓練を行っています。今年は11月に行い多くの職員が参加しました。実際に全館放送をして、集まった職員が模擬患者に急変対応をします。訓練後は参加者とともに訓練の様子を振り返り問題点を話し合います。実際に訓練をすると様々な課題が明らかとなり、振り返りは急変対応を考える学びの場となります。

RRTというチームで活動することによって、一人では困難だと思えることが実施できたり効率を上げることができます。救急看護認定看護師として学ぶことはまだまだたくさんありますが、チームで協力し合い院内急変対応の質向上に向けて活動していきたいと思います。



3階北病棟のデイルームで行ったコードブルー訓練の様子

